

「東京の夕暮れ(1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

よく晴れた日の夕暮れ時の空は、とても美しい。その空の色は、刻々と変化し、1分と同じ色には見えない。私は仕事の合い間、日没時刻の前後に屋上に上がって、空の色を観察することがある。



「小学校の屋上から見た西の空」 池袋の高層ビルの向こう側に夕焼け色の空が広がる。



よく見ると、ビルの間に山が見える。甲武信ヶ岳とその周辺の山だ。「甲武信ヶ岳」(こぶしがたけ)は名の通り、甲州(山梨県)、武州(埼玉県)、信州(長野県)の3県にまたがる山である。本校の屋上から、山梨県や長野県が見える・・・ということだ。

かつて(25年前)は、屋上から、雲取山(東京都最高峰)、飛龍、丹沢山塊、武甲山(秩父)、それに富士山まで見えた。しかし、大学構内の建物や、周囲のビル群に邪魔され、見えるのはこの甲武信一座のみとなってしまった。



「新宿方面の夕焼け」 この方位の空も美しい。新宿上空に、三日月が見える日もある。もう少し左側には東京タワーも見える。

こういう時間帯には、太陽の方向の空に注目しがちである。しかし、太陽と反対側の空にも目を向けてほしい。太陽が沈んだ直後から20分ほど、太陽と反対側の空(東側)が薄桃色に染まっているはずである。



日没とは反対側・・・ちょうど茗荷谷の方角の空である。西の空が、太陽の残照によって茜色に染まるのに対し、東側が薄桃色に染まるのは、少しメカニズムがちがう。これは「ビーナスの帯(ビーナス・バンド)」と呼ばれ、西に沈んだ太陽が、反対の西側(夜側)の上層大気を照らしている現象だ。このあと、西側から「夜の暗さ」が迫ってくる。(つづく)